

未来志創

よし! 廣晴ろう!

話がうまい人は、話すのに伝わらない経験をたくさんしている人だということです。伝わらない経験をたくさんしている人が、伝えるのが上手になっていたんです。伝わらない苦しさを味わうから、どうやったら伝わるかを考えます。伝わらないから工夫する。伝わらない苦しさを知らない人は、相手のことを全く考えないから、伝わらない。伝わらない苦しさを経験することが大事なんです。

と、回答したその後に「なぜ、海の昆布は海の中でダシが出ないのか?」という話をします。「えっ、あの海の塩っ気は昆布のダシじゃないんですか?」という珍回答もありましたが、ちょっと考えてみてほしいんです。

昆布、しいたけ、かつお節、旨味やダシを出すこれらの食品の共通点は、何でしょうか? これらの旨味やダシを出すものの共通点は、太陽に当てて乾燥させ、干からびていることです。海の昆布は干からびていないから、海の中に味が出ないのです。

人間の持ち味も同じなのです。1回干からびた経験がある人は、恵まれた環境の時に味が出ます。伝わらないもどかしさを味わうことによって、旨味が出てくるのです。伝わらない苦しさを知り、伝わることの喜びを知ることができます。1回干された経験がある人だからこそ、持ち味が出て伝わっているんです。自分らしくないことをたくさんやったことが、実は自分らしさを見つけていく近道なんです。干からびて苦しんだ経験から学ぶことが、あなたの才能なのです。

『すごい自己紹介』(横川 裕之)

「干からびた経験があるからこそ、それが才能になる」思い出したくもないような辛い経験があるからこそ、人に優しくなれるのかなと思います。辛い経験からいろいろなことに気づき、学びを積み重ねていくことで才能になっていきます。辛い経験を受け入れ、自分自身の存在を認めることが、成長の第一歩になります。

“for you” を “if you” に変えよう!

「こんなに努力したんだから、うまくいって当然」といくら思ったとしても、すぐに結果に表れるとは限らない。そうなると、報われないことに不満をもつようになる。「したことは報われるはずだ」と考えているから、苦しみが始まるのです。

恋愛だってそうでしょう。人を好きになると楽しいし、人生が明るくなる。ただそれだけでもいいはずなのに「自分と同じように好きになってほしい」と思うと苦しみが生まれます。「自分はこれだけ尽くしているのに」と見返りを求めたら、相手からすれば「あなたが勝手にしたことでしょう」と思われるのがオチです。

「お礼を言ってくれない」「感謝されない」「応えてもらえない」という思いを背負って生きるのをやめて、相手に期待しないでいけたらどんなにラクでしょう。見返りを求める心から解放され、「自分がしたことは、やっただけで終わり」となるのなら、余分な負担がなくなり、常に心を軽くして生きられるに違いありません。

『男の禅語』(平井正修)

“for you (誰かのために)” を続けていると、「あれだけしてやったのに・・・」という不満が出てきます。一方、“if you (もし、あの人がいたらどう喜ぶかな?)” を続けていると、不思議と愚痴は出てきません。どこに焦点を当てるかによって、違うものになります。読んでくれている人を思い浮かべながら、これからも“勝手に”書いていきたいと思えます。